

横浜創英が注目する非認知スキル
～ Competency ～

横浜創英中学・高等学校長 工藤 勇一

1

横浜創英が重視する教育

2

問題提起

そもそも、
なぜ非認知スキルを
育てようとしているのか？

3

問題提起

心はスキルか？

4

問題提起

どんな非認知スキルに
注目すべきか？



5

問題提起

非認知スキルを
どう評価するか？



6

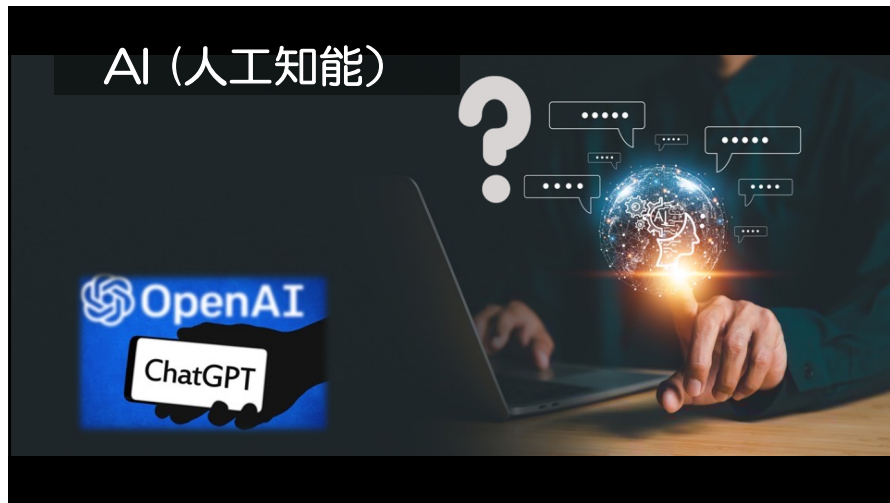
非認知スキルに注目する背景

7

科学技術が急激に進展している

ビッグデータ

8



9



10



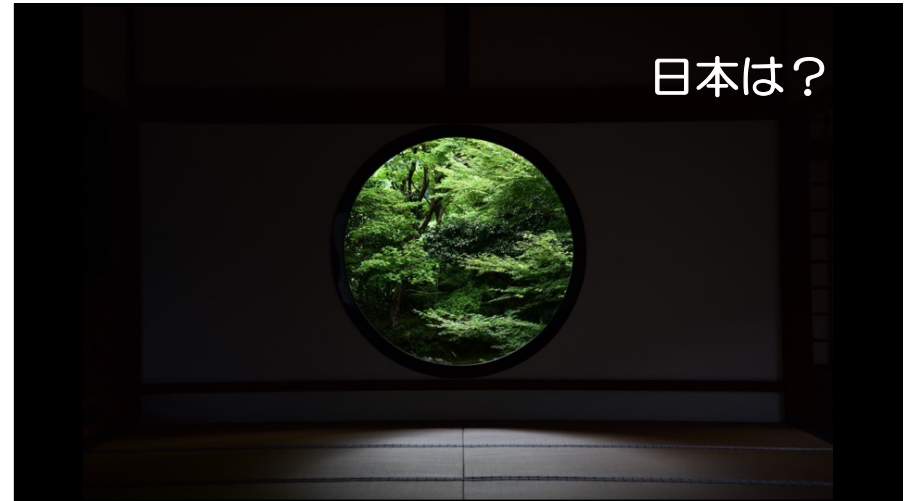
11



12



13



14

ビッグマックの価格

【2023年1月時点】

1位	スイス	944円
6位	アメリカ	697円
9位	オーストラリア	665円
		578円
		546円
		516円
31位	タイ	507円
36位	中国	460円
41位	日本	410円
43位	ベトナム	399円
54位	インドネシア	306円

賃金が上がらない

※ 2000年の時点では日本は5位だった。

15

株式時価総額ランキング

【1989年】
 世界上位20社中の日本企業数 **14社**
 (1位 NTT 2位 日本興業銀行 3位 住友銀行)

世界上位50社中の日本企業数 **32社**

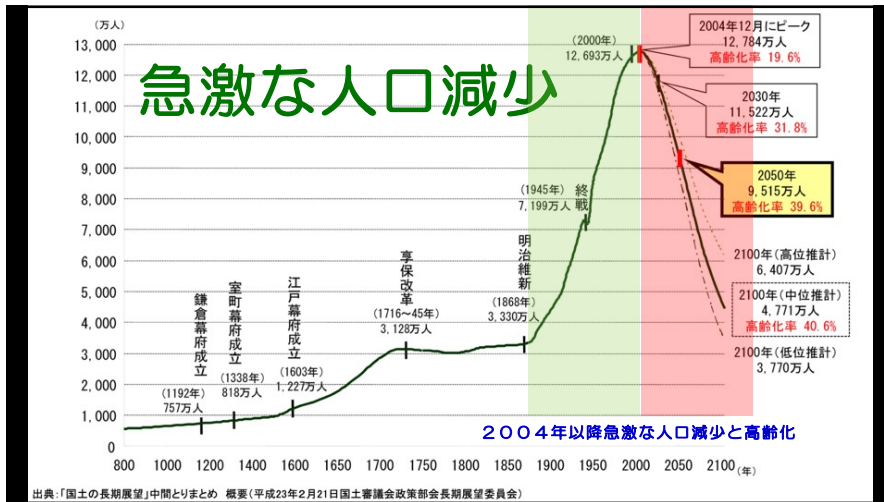
低迷する経済

【2023年】
 世界上位20社中の日本企業数 **0社**
 (1位 アップル 2位 マイクロソフト 3位 サウジアラムコ)

世界上位50社中の日本企業数 **1社**

ダイヤモンド社資料から

16



17



18

育てる人材像も変わった!

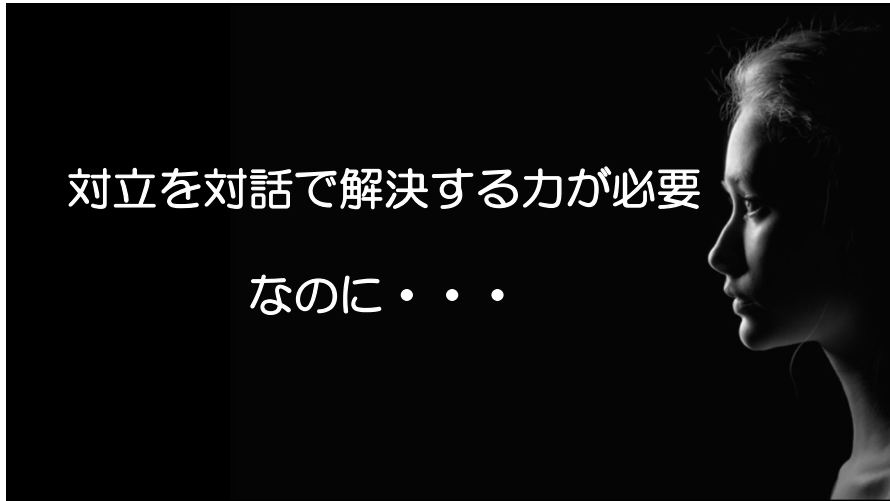
ひとつの会社に就職して
定年まで勤めることなど
ほぼあり得ない時代に!

**起業・転職
副業・兼業
特別な技能**

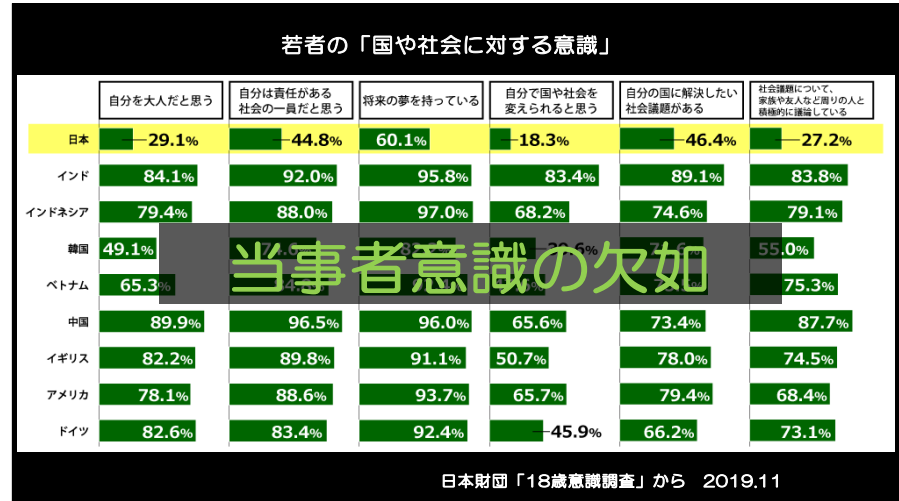
19

自分の頭で考える人材が必要
なのに・・・

20



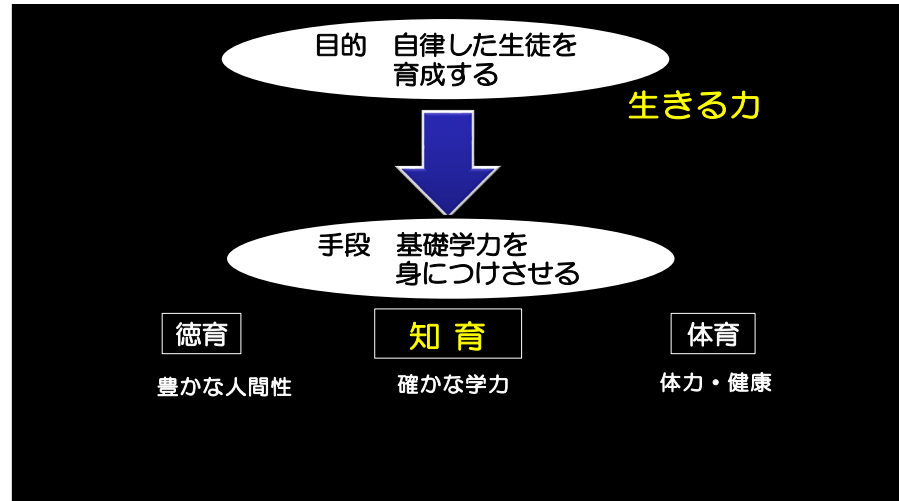
21



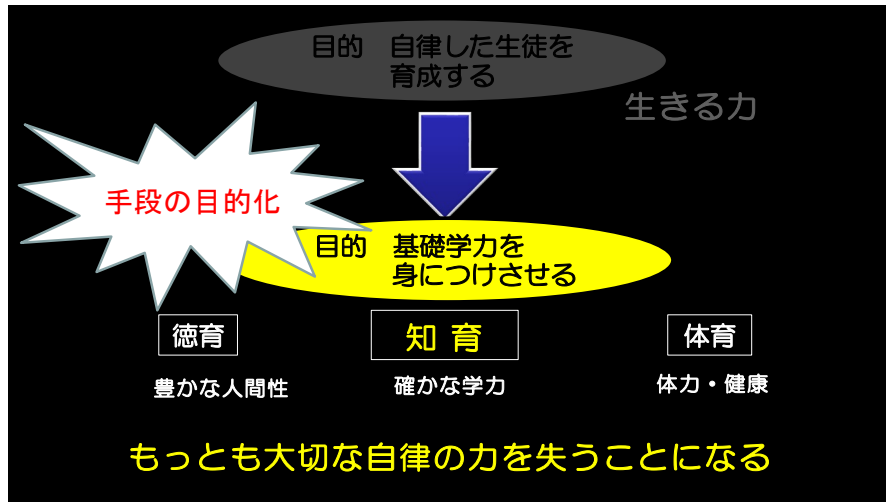
22



23



24



25

横浜創英が育てたいスキル
Competency

26

横浜創英が考えるCompetencyの定義

Competency = 人生で再現できる力

経験を何度も繰り返す中で、身につけることのできるスキル。
一度身につけたスキルは、その後の人生で繰り返し発揮され、繰り返すたびに強化されていく。

27

教育目標 (Competency)

自律 自ら考え、判断し、決定し、行動する

対話 多様性を尊重し、対話を通して対立・ジレンマを解決する

創造 問題を解決するために情報や技術等を活用し、新たな価値を生み出す

28

横浜創英中高が目指す教育

Agency

生徒主体の学び
生徒主体の運営

実学教育

社会との
リアルな繋がり

29

横浜創英が考える学校像

体験を通して
自律した人材を育てる場

多様性の中で
民主主義を実践的に学ぶ場

リアルに社会と繋がり
未来の社会を創造する場

30

【OECD Learning Framework 2030】

【個人の Well-Being】
人が社会の中で
よりよく生きていく



【社会の Well-Being】
よりよい(持続可能な)
社会をつくる



31

【OECD Learning Framework 2030】

【個人の Well-Being】
人が社会の中で
よりよく生きていく



【社会の Well-Being】
よりよい(持続可能な)
社会をつくる



32

教育目標 (Competency)

自律 自ら考え、判断し、決定し、行動する

対話 多様性を尊重し、対話を通して対立・ジレンマを解決する

創造 問題を解決するために情報や技術等を活用し、新たな価値を生み出す

33

横浜創英が重視する9つのスキル (Competencyの具体)

【自律】

目標の実現に向けて、見通しを持って計画的に実行する (PDCA)
自らの思考・行動を適切に理解し、調整・工夫する (メタ認知能力)
自らの感情と言動をコントロールする (セルフコントロール)

【対話】

考え方の違いを他者の立場に立って理解し尊重する (エンバシー)
対話を通して他者との共通の目的を見つけ出す (パブリックリレーションズ)
共通の目的の実現のために他者と協働する (コラボレーション)

【創造】

課題に対して問いや仮説を立て、科学的に解決する (サイエンスリテラシー)
本質を見極めるために自分や他者の考えを吟味する (クリティカルシンキング)
信頼できる情報を収集・吟味し、適切に活用する (情報リテラシー)

34

Competency の評価

自らの経験を通して
9つのスキルについて
具体的な言葉で
意味付けたり
価値づけたりすることが
できる

35

因子	スキル	説明
広い心 （経験への 開放性）	好奇心	考えへの関心、向上心、理解と知的探究、知識欲旺盛な思考態度。
	忍耐力	さまざまな観点に進んで立つ、多様性の尊重、外国の人々や文化をよく理解している。
	創造性	探究や失敗からの学習、洞察、直感力によって新しい方法や考え方を編み出す。
作業の成果 （誠実性）	責任感	約束を守ったり、時間を厳守したりできて信頼できる。
	自制心	個人的な目標を達成するために、注意散漫や突然の衝動を避け、現在の作業に注意を集中できる。
	ねばり強さ	完了するまで作業や活動をたゆまず続けられる。
他者との関わり （外向性）	社交性	友人であれ、他人であれ、他者に近づき、社会的つながりをつくって維持することができる。
	積極性	自信を持って意見や要求、気持ちを声に出し、社会的影響を及ぼすことができる。
	活発さ	精力的にわくわくしながら、のびのびと日常生活を送る。

因子	スキル	説明
協働 （協調性）	共感	他者を理解し、その安寧を気に掛ける。親密な関係を大事にして心を注ぐ。
	信頼	他者は一般に善意を抱いていると考え、過ちを犯した者を許す。
	協同	他者と仲良く暮らし、すべての人々の相互の結びつきを大事にする。
感情抑制 （情緒安定性）	ストレス耐性	不安を効果的に和らげ、問題を冷静に解決できる（気を楽しんで、ストレスにうまく対処する）。
	楽観主義	自分自身と人生全体についての前向きで楽観的な期待。
	感情コントロール	不満を感じたときに腹立ちや怒り、苛立ちを抑える効果的な方法。
補助的指標	達成動機	自分自身について高い基準を定め、それを満たすように努力する。
	自己効力感	課題をこなして目標を達成する自分の力に対する確信の強さ。

自律 自ら考え、判断し、決定し、行動する

①目標の実現に向けて、見通しを持って計画的に実行する (PDCA)	②自らの思考・行動を適切に理解し、調整・工夫する (メタ認知能力)	③自らの感情と言動をコントロールする (セルフコントロール)
<ul style="list-style-type: none"> ・課題を発見し、課題を解決するための計画を自ら立案できる力 ・計画の先にある未来を予測し、より良い選択をする力 ・計画を実行する際に生じた副作用や反応を点検して修正できる力 ・計画の実行によって生まれた成果と課題を評価できる力 ・評価を踏まえ、改善のために計画を修正して新たな実践につなげる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの弱みや短所を含めて、ありのままの自分を受け入れる力 ・他者と比較せずにもう一人の自分で自身を見つめ、状況に応じて適切な判断を下すことができる力 ・自分の思考や行動を俯瞰的に見つめ、より良い方向に変えていくための工夫ができる力 ・自分の思考や行動に変化を与えて、自らの強みや成長につなげていく力 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との対話で対立が生じた際、自らの感情や言動をコントロールする力 ・困難を打開するために自己を制御し、自らを向上させるためのモチベーションを維持する力 ・良い行動やポジティブな思考を習慣づけて持続させ、自己を肯定しようとする力

対話 多様性を尊重し、対話を通じて対立・ジレンマを解決する

④考え方の違いを他者の立場に立って理解、尊重する (エンパシー)	⑤対話を通して他者との共通の目的を見つけ出す (パブリックリレーションズ)	⑥共通の目的の実現のために他者と協働する (コラボレーション)
<ul style="list-style-type: none"> ・意見や考え方については対立やジレンマがあって、それが当然であることを理解できる力 ・他者の立場や考え方の違いを理解する力 ・人権に関わる知識・スキルを持ち、自分と違う立場の人を尊重する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会を作ることをめざし、他者との考え方や意見の違いを尊重する力 ・誰も取り残さない共通の目的を発見し、その目的のために双方向の対話ができる力 ・合意ができたなら、その実現のために自分の考えを修正することができる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な個性に触れることで自分が高まることを知り、新たなチームの再構成を働きかける力 ・それぞれの個性や強みを分担・補完しながら、調整して他者につながる力

創造

問題を解決するために情報や技術等を活用し、新たな価値を生み出す

⑦課題に対して問いや仮説を立て、科学的に解決する (サイエンスリテラシー)	⑧本質を見極めるために、自分や他者の考えを吟味する (クリティカルシンキング)	⑨信頼できる情報を収集・吟味し、適切に活用する (情報リテラシー)
<ul style="list-style-type: none"> 知識、情報、テクノロジー等を活用して、目的と他者を意識した表現をする力 自然や社会の事象や現象について課題を見つけ、それらを解決する方法などについて、仮説を立て、実験・観察、データなどをもとに検証することができる力 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の概念や自らの思考・判断の思い込みの傾向を知る力 自分の考えの根拠を明確にし、自分が納得いくまで掘り下げて考えることができる力 	<ul style="list-style-type: none"> 課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な方法を用いて収集する力 情報の出処や目的を吟味し、得た情報が「事実」であるかどうかを吟味できる力 インターネットやメディア等を活用し、情報を適切に発信できる力 何のため（目的）と誰に向けて（他者）を意識して、自分の考えを発信できる力